保育所実習における運動遊びと短大における体育時の運動遊び

黒 岩 英 子

A Study of Physical Play Activities in Teaching Practice at day-Care Nurseries and Physical Play Activities of Physical Education Classes of College Students

Eiko KUROIWA

Abstract

This study is a report from an investigation of physical play by our students. I asked them questions about the following areas : 1) Physical play activities in teaching practice at day-care nurseries. 2) What or when do they enjoy those play activities ? 3) what do you think are the reasons. 4) What do you feel trouble in doing? The results of the study indicate that children play tag most frequently together in nurseries. Student teachers watched children enjoy playing tag. They think children feel a thrill to touch each other from tag. I analyzed college students' plan and consider of their physical play activities done in physical education classes. The most popular play was play done with people. They obtained information about various kinds of physical play activities. But students' skills in considering play as seen in minds were still not good enough. Therefore, I was suggested I have to go to the day-care nurseries to play with children. Then I wish to propose to them some advice concerned with children hearts.

Key words: play tag, enjoy, play done with people.

1、はじめに

保育者養成にとって、実習が重要な位置を占めることはいうまでもない。大学での講義を踏まえ現場で直接、子どもたちに触れ、関わってくる体験は、学生たちを大きく成長させる。

実習に関しては、現状と課題[1]について、あるいは実習指導について[2]学生の意識を調査した研究がある。その他には子どもの遊びを観察して、知見を得た研究は多いが、学生がどのように子どもの遊びに関わっているかについて、究明した研究は見当らない。

筆者は昨年度、保育所実習における学生の実習内容、および子どもの遊びについて調査[3]をし、実習指導の視点から分析を試みた。その結果、学生の実習のなかから特に、遊びに関してさらに追求する必然性が生じた。それは夏期の実習であったため、どの年齢においても、水遊びやプールでの遊びが上位をしめていたことは理解できるが、それ以外には、どのような運動遊びをしていたかである。

一方、専門の体育の演習において各自、対象年齢を想定しおおまかな活動の流れの案を作成し、24人前後のグループで遊びを実践した。実践中も遊びを面白くするための意見などを言い合った。直後にグループ内でミーテイ ングを行ない、反省と考察を後日記録させた。この演習が実習にどのように関連したのであろうか。

この２点を明らかにするため、本年の学生に調査をした。同時に子どもたちが喜んで行ったのはどんなことか。学生が子どもと遊ぶ時、学生が困ったことはどんなことかを記録させた。これらを検討することにより、今後の実習指導と体育の演習の参考資料とする。これは、またF.Dの意味も含んでいる。

2、方　法

1）実習時期　2001年7月～8月の間10日間
2）体育演習時期　同年6月～9月第1週
3）調査時期　9月第2週体育授業時
4）調査対象　2000年入学生96人
5）調査方法　説明を加えながらの自由記述
6）手続き　遊びの共通性を基に大別する。
＊　保育実習事前指導は2000年の研究紀要[4]に記載したものに、未満児の遊びを追加した。

3、結果と考察

1）学生が保育所実習中に行った運動遊びと体育時の運動遊びを表1に記す。（複数回答）

表1

	遊び	保育所	体育時
a	人との関係で成立する遊び（　）内鬼ごっこ	29人 (24)	39人 (23)
b	リズム・ダンス・歌あそび	11	3
c	かけっこ・リレー	5	2
d	ボールを使った遊び	8	18
e	フープを使った遊び	5	18
f	縄を使った遊び	0	9
g	水を使った遊び	4	0
h	身近な小物を使った遊び	4	8
i	竹やエンビを使った遊び	0	3
j	虫捕り	3	0
k	固定遊具での遊び	7	0
l	器械体操具を使った遊び	0	4
m	プールや川での遊び	7	0
n	砂場での遊び	2	0

＊保育所での鬼ごっこの内訳
鬼ごっこ・かくれんぼ・色つき鬼・
高鬼・桃太郎鬼・氷鬼・フルーツ鬼
＊体育時の鬼ごっこの内訳
輪っか鬼・人宿鬼・子ふやし鬼・ライン鬼・
助け鬼・島鬼・狼鬼・名前鬼・手切り鬼
＊保育所と体育時に共通の鬼ごっこ
手つなぎ鬼・追い出し鬼（頻度も多い）

以上より、学生が保育所実習中に行った遊びで1番多かったのは、aの、人を相手にする遊びである。中でも鬼ごっこが1番多いが他はひまわり・警察と泥棒・だるまさんが転んだ・変身ごっこ・引っ越しドンである。リレーとかけっこはこの項目から除いたが走力を競うことに力点があるからである。

フルーツ鬼というのは、フルーツの名前を唱える遊びとフルーツの絵に入る遊びとを含んでいる。

次に多い遊びは水に関する遊びである。プールや川での遊びと水を使った遊びを合わせれば11人となり、2番目になる。夏の季節を反映している。他はかなり多岐にわたっているといえる。

体育時に行った遊びの1位も、aの、人を相手にする遊び（39人）である。中でも鬼ごっこが1番多い。aの中には、猫とねずみ（5人）・ジャンケンを使う各種の遊び（8人）・押し相撲・人間綱引きを含んでいる。ジャンケンを使っていろいろの遊びを考えていたことから、学生にとってもジャンケンは子どもたちと共通に魅力があるといえよう。（後出2の①）

演習は体育館内で行ったため、当然のことであるが水を使う遊びは皆無である。今後体育館外を使用するなど実施にむけ考える必要がある。

複数回答とは複合させた遊びや、発展・展開したものを数えている。これは授業で強調しているが、実践できた学生は多くはいない。しかし、23人のグループ内で活発に意見を出し合い、どのようにしたら遊びが面白くなるかを考えていたグループが1つあった。このグループの学生は遊び作りの力がかなり身についたと思える。

なお、体育時の演習と同じ遊びを保育所で実践していた学生は3人（hの中のしっぽとりが2人、dの中のボール運びが1人）であった。他の学生が行った遊びを活用した学生が多くいた。

2）鬼ごっこの喜びとその理由

保育所での1位（体育時も1位）になっている鬼ごっこは、子どもたちにとって、何が喜びなのか。またその理由は何かを学生に推察させた。

①　どんなことに喜んだか、
・ジャンケンをして鬼を決める時
・追いかける時
・追いかけられて走る時
・鬼になること
・体をおもいっきり動かした時
・声をかけ合う
・鬼に見つからないように隠れる
・フルーツの名前をいう時
・捕まえられる時
・その場に固まるとき

② 何故喜ぶと思うか

・鬼になるかならないかというわくわくした気持ちで一杯
・追いかけられることそれ自体が嬉しい
・タッチされても走り回ることができる
・いつ鬼になるか、わからないのでドキドキする気持ち
・いつ見つかるか見つからないかというスリル
・みんなルールを知っており、体を使って楽しく遊べる
・友だちを助けようとしたり、捕まえようとしたりして触れ合うことができるから
・鬼が逃げている友をタッチする達成感
・捕まりそうで捕まらない感じが楽しいのではないか
・逃げたり捕まえたりするのが楽しい
・そのままの姿で固まるのが面白い
・全身で本気であそべるから
・一緒に遊んでいる実習生がいたから

鬼ごっこで喜んだのは、鬼決めの時や追いかけたり追いかけられたりする時、鬼に捕まえられる時に多く見られる。つまり鬼に直接関わることがらである。

なぜ喜ぶのかについては、わくわくした感じ・スリル感・友だちをタッチする達成感・体に触れる・走り回ること自身などをあげており、村岡[5]が「鬼遊びを、他者との関係で引き起こされる身体のスリル感が楽しさの核となっている」としていることに重なるといえる。

3）子どもと鬼ごっこをした時、困ったこと

① 鬼きめと鬼の交替に関して　9人

（内容）・ジャンケンで鬼を決めた後も、「私が鬼」と言って鬼の子を認めない。（5歳）
・鬼になりたくてもなれない子がいて泣いてしまい、いろいろしても泣きやまない。（5～6歳）
・鬼になりたくて、わざと捕まろうとする。（5歳）
・なかなか見つからないと、鬼をやめると言う。（3歳）

② 遊びへの参加に関して　6人

（内容）・活発に参加する子どもと、しない子どもがいて、子どもをまとめることに。（4歳）
・次々に子どもが参加してきて、だれが鬼か分からなくなってしまった。（5歳）
・突然けんかをしてしまった。（4・5歳）

③ 場所と逃げ方に関して　6人

（内容）・危険な場所（ブランコ）のそばに行ってしまいぶつかりそうになった。（3歳）
・走り回ってテラスに出て行った。（3歳）
・捕まえる時に、服を引っ張り首がしまりそうになったりした。（4～5歳）
・実習生に追いかけられたくて、子どもが子どもを追いかけることが少なかった。（5歳）

④ ルールに関して　4人

（内容）・途中から入ってきた子ども（4歳）が、ルールが分からずにいたことに、対応できなかった。
・ルールを破っている子ども（4歳）に、ルールを守らなければいけないことを伝える時。
・石灰で描いた絵が消えて、子どもたち（3歳）がルールを守れなくなった時。

鬼ごっこの最中に困ったことは、{鬼} に直接関係することである。鬼ごっこであるため、遊びの中心である鬼に関することが多いことが明らかである。子どもたちの鬼への強い思いが現れていることにたいして、学生は戸惑っている。

遊びへの参加や場所と逃げ方に関して困った学生がそれぞれ6人いるが、経験を積み予測可能になり、保育技術が向上すれば、改善されることであろう。

ルールに関しては4人であり、これは個別に対応するように伝えれば解決する事柄である。

4）体育演習後の反省と考察

学生は演習後のミーティングを含めて、どのような反省や考察をしたかについて、主な内容を項目に分け記すことにする。

① 活動開始時の説明に関して

・自分自身をまず落ち着かせることに時間をとった。
・話をする時、分かり易くするのが難しかった。
・楽しくなるような雰囲気作りに苦慮した。
・理解しやすいように伝えることが難しかった。

② 遊び方に関して

・ジャンケンの声かけのタイミング
・秒の数え方の統一が必要
・鬼に目印が必要
・ゲームの終わり方
・勝敗のつけ方

③　人数に関して
・鬼の数
・組分けの人数調整
・まず遊んでみて、その後鬼を増やした。
④　遊び道具に関して
・ボールの堅さや柔らかさに気をつける。
・セーフテイコーンの数
⑤　遊びの場所に関して
・場所の指示の仕方
・遊ぶ際の広さの決め方
・一度してみて、広くすればよい。
⑥　安全に関して
・縄が首にかからないようにした。
⑦　考えて実践したことや分かったこと
・縄を２本にして発展を図った。
・鬼を増やし、10秒数えて始めていたのを５秒数えるようにした。
・１度やってみたが、友だちの意見で場所を広くするようにした。
・前段の遊びが必要である。
・自分が考えていた道具の使い方より多様な使い方を友だちが発表したため、面白くなった。
⑧　演習全般について
・反省点や留意点が分かる。
・指導法のイメージを得た。
・どんな動きを期待するかを考えておく必要
・子どもが相手の場合は細かい配慮が必要

以上学生の反省と考察を８種類にわけた。23人を前にして声を出して話をすること自身が緊張する体験であったことが理解できた。

遊び方に関することは、今後の経験で改良されていくことであろう。

考えながら、あるいは友だちの意見を取り上げながら遊びを作っていくプロセスを筆者は大事にしたが、結果的には、このことができた学生は多くはいないが、わずかいる。これは〔⑦〕の項目に現れている。授業中、実際に活動した後に改良点を述べる学生が多かったが、〔⑧〕の項目にそのことは表れている。まず、遊びを体験しミーティングをし友だちの意見を聞くことによって、遊び理解を深めていったということが分かる。

学生を相手に、しかも体育館のみの演習であったことからくる反省も多い。このことと、保育所での困ったこととが関連していることが明らかである。授業では、対象年齢と実施の時期を明らかにして演習を始めるようにしているが、学生がその対象年齢に変身できないことからもきている。事前に教師のほうで活動案について、難易度はチェックしているが対象年齢の心理面についての、個別の留意事項を指摘していないことも要因の一つと考える。

従って、子どもの心理を学生に説明し、子どもの思いを受け止めながら子どもと遊ぶことについて、この演習で補強していかねばならないということが明らかになった。

4、おわりに

今回の調査から、学生が保育所で子どもたちとよく遊んだ遊びを大別すると11種類あった。学生が体育館で行った遊びは９種類である。これは体育館という制限された空間を使用したからである。今後テラスを使用する等、場所の拡大を考えたい。

遊びで１番多かった鬼ごっこについて、子どもたちが喜んだ時は、鬼に直接関係する場面であった。人との関係により成立する遊びは、いつ鬼になるか分からないワクワク感やドキドキ感とともにスリル感を味わうことからくるものであることが確認できた。

学生は子どもと遊ぶ時に、困ったこともさまざま体験している。鬼ごっこにおいてはやはり、鬼に関することであり、子どもたちの鬼への熱い思いを受け止めながら遊びを展開することは、難しいようである。今後授業における改善が必要であることが分かった。現実の子どもを相手にしていない模擬体験の限界であろう。しかし、それゆえに演習の意義が見いだせるように改善する必要性が示唆された。

学生が記述した演習時の反省や考察と、体育の授業にとり入れて欲しい事柄を検討し、筆者自身が保育所に出かけ保育所の子どもと直接遊び、学生に多くの具体例をしめしていけるようにすることが今後の課題である。　　（2002年９月30日受理）

この報告は2002年５月日本保育学会第35回大会において、口頭発表したものに加筆したものである。

文　献

1）森　隆子他　実習の現状と課題　保育士養成協議会研究発表　第38回 1999年
2）狐塚和江　保育者養成における実習指導に関する一考察　日本保育学会論文集　第42回大会 1989年
3）黒岩英子　保育所実習に関する調査研究　西南女学院短期大学研究紀要第48号 2001.12
4）3)に同じ
5）村岡真澄　運動遊びにおける幼児の遊び意識の発達と保育者の援助　愛知教育大学　幼児教育研究　第4号 1995.3

資料1

保育所実習中の運動遊びについて

氏名　　（　　）組
保育所名
実施日　'０１年　　月　　日　　歳児　　人
活動内容

その中で子どもたちが喜んで行ったのはどんなことですか。

その理由は何だと思いますか

困ったことはどんなことですか

体育時の部分案の演習はどのようなことに役立ちましたか。

体育の授業にぜひ加えた方が良いと思うことがあれば書いてください。

資料２

体　育　活　動　案

演　習　日	月　　日	演　習　学　生　名	組　　番　前半・後半　氏名		
実習予定年級	組　　歳児（男児　　名、女児　　名）			実習設定日	月　　日（　　頃）
活動の予定					
活動のねらい					

時間	環境の構成と予想される幼児の活動	保育者のかかわりと、留意点・援助など	実際の活動
反省考察配慮その他			